

青空通信

平成25年9月26日

発行：北九州市

私立保育園連盟

青年会議

発行人：山本 博文

編集人：鷲峰 康尚

橋原 法道

山崎 公博

《青年会議 会長挨拶》

山本 博文(別所保育園)

今年度四月より役員も新体制となり二期目を向かえ、また、(公社)全国私立保育園連盟青年会議副会長兼企画部長として務めさせていただいております。

六月には、北九州市私立保育園連盟が公益社団法人へ移行し、それに伴い私たち青年部会も北九州市私立保育園連盟青年会議に名称を変更いたしました。各部会も(公社)北九州市私立保育園連盟の各委員会との連携を図るため青年会議の各部会も総務部・調査研修部・広報部と名称を変更し、今まで以上に幅広い活動へ繋がって行きたいと思っております。

また、平成二十四年度に「子ども・子育て関連三法」がしめされ、そして平成二十五年度から「子ども・子育て会議」において「子ども・子育て新制度」の具体的な運用に関する基本指針、運営基準、保育の認定、幼保連携型認定こども園としての枠組みなどについて検討がなされ、地域における対応や対策も議論されている今、まさに保育・子育て支援を取り巻く状況が、その根本から大きく変わろうとしている転換期であり、子育て支援の担い手として未来に対して大きな不安を抱かざるを得ない状況であると言えるでしょう。私たちは、これまで、限られた財源の中で私たちに要求されてきた多くの役割や、新たな考え方、それに伴う流れにより、制度の崩壊を危惧しながらも、常に子どもたちの最善の利益のために力を尽くしてきました。私たち青年会議は、今一度これまでの歴史を振り返り、過去の事柄を知り、培ってきたものを認識して、今現在の足元をしっかりと見据えたうえで、新しい知識を身につけていきたいと思っております。

今後ともご指導をお願いすると共に、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

《活動報告》

毎月	例会	平成二十四年度
十月十八日	全私保連青年会議 熊本大会	十月十九日
十二月六日	全私保連青年会議 九州ブロック長崎大会	十二月七日
二月十四日	北九州市私保連青年部会 二十周年記念事業式典	二月十六日
二月二十六日	青年会議 第八回特別セミナー	二月二十七日
三月七日	青年会議 第三回幹事会・研修会	三月十二日
三月十四日	鹿児島県保育連合会青年部 十周年記念式典	三月十七日
三月十四日	全国私立保育園連盟「九州ブロック青年会議」と 日本保育協会「九州日本保育協会青年部会」と の研修会及び合同会議	三月十五日
三月十四日	平成二十五年度 予算総会	三月十六日
四月十七日	決算総会(平成二十四年度)	五月十五日
五月十五日	青年会議 第一回幹事会	五月十六日
五月十六日	第五十六回全国私立保育園研究大会 宮崎	六月四日
六月四日	平成二十五年度 総会・補助金研修会	六月七日
六月七日	わっしょい百万夏祭り	八月四日
八月四日		八月二十八日
八月二十八日	青年会議 第二回幹事会・研修会	八月二十九日

【全私保連青年会議 熊本大会】

〔日程〕平成二十四年十月十八～十九日

〔場所〕熊本全日空ホテル

〔講師〕尚綱大学短期大学部名誉教授 浜崎幸夫先生

〔内容〕保育者の野生力を問う

～人と自然とのコミュニケーション

十月十八～十九日の二日間にわたり熊本県で行われた「第三十二回全国私立保育園連盟青年会議 熊本大会」に参加させていただきました。

大会一日目は、今大会のキーワードでもある「保育五輪書を手に入れよ」剣豪宮本武蔵が靈巖洞にて書き記した五輪書に准え、五つの分科会が用意されていました。私は第五分科会空の巻「実の空」保育者の野生力を問う～人と自然とのコミュニケーションに参加させていただきました。講師の浜崎幸夫氏（尚綱大学短期大学部名誉教授）より、保育者として身に付けるべき人間の真髄「野生力」についてのお話がありました。その後、他県の先生方とのグループワークにより、今の子どもたちに足りないもの、必要なことなど様々な意見を出し合い論議することが出来、大変意義深い研修となりました。



大会二日目は、菅原良次氏（全私保連常務理事）より、保育を取り巻く「三党合意」を受けての情勢課題についてお話があり、新システムを基本に三党合意としてまとめられ、国会において可決されたことの歴史的

意義と評価について、また新たに生まれた課題を整理し、解決のために全会員のまとまりと結束、そして保育三団体との連携が必要になることなどのお話があり、個人だけでなく団体としての結束もより強くしていかなければならないと感じました。

記念講演では東海大学副学長元柔道家の山下泰裕氏より、人を育てる、人に育てられると題した講演をいただき、もう一度原点に戻って身のまわりのことを見つめ直してみること、子どもが有能であると感じる大人がいれば子どもは有能になるなど、子どもの視点で考えることや信じることの大切さを再確認することができたように思います。

今回の熊本大会を通して、講師の方や、他県の先生方の自分にはない発想の話を聞くことができたことで、あらためて自園の取り組み等考え直したり、見直していく良い機会になりました。もう一度、自園の取り組み、自分の保育を見つめ直していきたいと思えます。

栄美保育園 宮原 健輔

【全私保連青年会議 九州ブロック長崎大会】

〔日程〕平成二十四年十二月六～七日

〔場所〕長崎県立総合体育館

〔内容〕九州は一つ！

これからの青年部動と保育園経営

平成二十四年十二月六～七日の二日間にわたり長崎県で行われた「第十四回 全国私立保育園連盟青年会議 九州ブロック大会 in長崎」に参加しました。



研修一日目は、「保育園でも楽しめる！ドッジビー」をテーマに長崎県フライングディスク協会の方々から講演、実技の流れで研修が進められました。講演では、ドッジビーの安全性（素材が柔らかいため、つき指がない）や楽しさと魅力、十種目近くの競技説明などを受けました。その後、ドッジビーの試合を実際に体験することで投げ際の難しさと楽しさを身をもって勉強することができました。

研修二日目は、「九州は一つ！ これからの青年部動と保育園経営」をテーマに討論会が行われ、各県の支部代表者より活動報告がありました。各支部からは「保育実践に活かせる研修会や職員指導法研修」「スポーツの交流会」「青年部員だけでなく保育士等も参加できる研修内容」など様々でした。同じ九州内の青年部でも取り上げている研修内容や調査項目、活動している内容や抱えている問題の違いを知ることができました。

今回の研修を通して、子ども向けの安全性の高いドッジビーの発見や指導方法、九州の青年部の先生方との意見・情報交換をすることで保育内容など、色々な面での「保育」の深さを改めて実感しました。今後も他県の青年部の活動なども参考にし、色々な取り組みに率先して取り組んでいきたいと思えます。

いちご保育園 加来 賢大

【北九州市私保連 青年部会二十周年記念事業式典】

〔日程〕平成二十五年二月十四日

〔場所〕リーガロイヤルホテル小倉

〔内容〕(社)北九州市私立保育園連盟青年部会

二十周年記念式典・記念事業

平成二十五年二月十四日は北九州市私立保育園連盟青年部会二十周年記念行事を主催させて頂きました。式典に始まり、厚生労働省橋本課長の行政説明を頂き、玉川大学教育学部准教授大豆生田先生の記念講演では、地域社会が大きく変化して、保育所の重要性がずっと増したと、かつて子どもたちが「放牧」されていた時代とは質的に異なる現代の地域社会の中で、特に保育に関わる関係者・大人・保育者のコラボレーションが今ほど問われている時はないこと、保護者とのパートナーシップや保育者のQOLの課題は、今までよりもずっと重みを増していることがひしひしと実感できました。

そして経済協力開発機構OECDのような国際機関が乳幼児保育の在り方が後年に至るまで子どもたちの育ちと成長に現実的大きな影響を及ぼしていることを指摘し、乳幼児保育の質の重要性を唱えている情勢を知り、さらにアメリカのNICHHD調査では保育の質とは、子どもたちに対する肯定的・共感的な保育者の態度や言葉かけ、0歳児から始まる大人との相互のポジティブな応答、保育者側からの信頼を背景にした問いかけなどによる子ども達自ら考え調べ意見話し合うシーン、それらの日々の働きかけによる積み重ねから子ども達自身の自尊感情が芽生えるこ

とこそがその本質であることがよく理解でき、目からウロコが落ちる思いでした。



続くパネルディスカッション

では、TOTOのダイバーシティの取り組みなどを目の当たりにすることができました。パネラーの皆様の話から、特に男性のワークライフバランス意識がもっとも必要であることを再認識し、子どもたちの周囲にいる親や保育者といった周辺の大人がまず精神的に満たされなければならぬこと、それが結果的に子ども達の発達に良い影響となって表れてくることなど認識を新たにすることができました。子ども達に、今よりもっと自ら納得できるまで活動に取り組むことが出来る環境やシステムを保障するために、もっと真剣に課題と向き合おう、さらに精進しようという気持ちを新たにすることができた有意義な時間でした。

懇親会でも多くの方々に参加していただき、北九州市私立保育園連盟青年部会二十周年の歩みをDVDにまとめ懇親会会場で披露し多数の方々に見て頂くことができました。歴代の青年部の諸先輩方と青年部の歴史や、エピソードなどたくさん話をさせていただき、またたく間に時間が過ぎとても楽しい時間を過ごすことができました。パネリストの方々や行政関係の方々、保育所連盟事務局など多くの方のご指

導とご尽力のおかげで二十周年記念行事を無事に終えることができました。これからも、北九州市保育園連盟青年部会の名に恥じぬよう、ご叱咤とご鞭撻を仰ぎながら頑張っていく所存です。誠にありがとうございました。

岩崎保育園 新川 知明

【青年会議 第八回特別セミナー・研修会】

〔日程〕平成二十五年二月二十六日

〔場所〕浅草ビューホテル

去る二月二十六日、東京浅草ビューホテルにて、第八回特別セミナーが開催され、参加いたしました。今回の特別セミナーは、「いま私にできること、私たちにできること……つながる個、それぞれの東日本大震災」のテーマのもと行われました。

第一部は「ソーシャルメディアが切り開く未来」という演題でジャーナリストの津田大介氏より、東日本大震災後、ソーシャルメディアは単なるコミュニケーション手段、情報入手手段だけでなく、リアルタイムな社会現象の中で自分がしたいと思ったアイデアに共感する人を集め、即座に実行することを期待される、という講演がありました。

第二部は、パネルディスカッションでコーディネーターとして引き続き津田大介氏、パネリストとして作家の大野更紗氏、福島県保育協議会事務局長の渡辺恭子氏、全私保連青年会議幹事の宮林佳子氏より、東日本大震災を通してそれぞれの思いを語られています。その中で、宮林氏の青年会議の活動で、くまも

んTシャツをデザインし全国に支援の輪を広げ、福島の方々にバス代を支援されていることに、北九州市の青年会議でも賛同し支援させていただきました。

最後にこれから被災地のためにできること。又、それらを教訓として私たちの「目の前にいる子どもたち」をいかにして守るかを学びました。

浅川保育園 上原 剛

【全国私立保育園連盟「九州ブロック青年会議」と日本保育協会「九州日本保育協会青年部会」との研修会及び合同会議】

〔日程〕平成二十五年三月十二日

〔場所〕熊本県総合福祉会館 五階研修ホール



昨年十二月に開催された青年会議九州ブロック大会 in 長崎で、青年会議本藤会長と日保青年部会吉岡部長の提案より、「親会は九州保育三団体協議会として活動している、私たち九州青年保育者も平成二十五年年度より合同の会議や研修会を開催したい」との意見がなされ、平成二十五年年度の開催に向けての研修会及び合同会議が熊本県で行われ、九州各組織の代表が集い様々な意見が出される中、次年度からの開催を各組織とも確認しました。

また、情報交換会では日頃交流がない佐賀県と大分県の青年部の先生方と交流が図れ、充実した研修会・交流会となりました。

別所保育園 山本 博文

【平成二十五年年度 決算総会】

〔日程〕平成二十五年四月十七日

〔場所〕レインボープラザ五階会議室

〔参加〕十五名(他に委任状六名)

四月十七日、レインボープラザにおいて、平成二十五年年度青年部会の総会が行われました。当日議長には、きくが丘保育園・藤上先生を選出し、円滑に議事が進められ、無事平成二十四年度事業報告・収支決算を議決することができました。また、本年度も北九州市内保育関係者の皆様にはいろいろのご迷惑をおかけすることもありませんが、青年部一同より充実した研修会・例会を行ってまいりたいと思います。

【補助金研修会】

〔日程〕平成二十五年六月二十六日

〔場所〕レインボープラザ五階会議室

〔内容〕補助金交付請求について

六月二十六日、レインボープラザにおいて、「補助金研修会」が開催されました。講師に、保育所連盟事務局の吉竹さん、アドバイザーとして、北九州市子ども家庭局保育課の佃さん、嶋田さんをお迎えしての研修会となりました。

主な内容として、保育課より平成二十五年年度「特別保育事業補助金交付基準表」、「民間保育所補助

金交付基準表」についての説明。事務局より、「民間保育所運営補助金交付請求」、「特別保育事業補助金交付請求」についての説明がありました。説明を受ける中で、補助金書類作成での疑問点や記入例の確認等、活発な意見が出て、大変有意義な研修となりました。この研修会で得たものを、保育課・事務局・青年会議会員で作成した補助金入力システムに反映して、会員の先生方が補助金資料を作成しやすくなるように改善していきたいと思えます。

小倉北ふれあい保育所 橘原 義晃

【わっしょい百万夏祭り】

〔日程〕平成二十五年八月四日

〔場所〕北九州市役所前



八月四日、毎年恒例のわっしょい百万踊りが開催され、今年も保育所連盟のサポート役として、青年会員も参加させていただきました。主な役としては、休憩時のお茶配りですが、青年会員も北九州市民として楽しく参加することができました。

〔編集後記〕

運動会シーズン到来、青空のもと子ども達の頑張る姿と両親・祖父母からの声援、毎年この光景を見るたびに心が温かくなります。

青年会議も子ども達のパワーに負けることなく明るく元気に活動し、皆さんの声援を力に変えていきますので、今後ともよろしくお願い致します。